



にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

【新潟県柏崎市】

“帆船「日本丸」が8月8日から柏崎港中浜埠頭に寄港します”

◆新潟県中越地震、新潟県中越沖地震と3ヵ年で2回にわたる震災により減少傾向にある柏崎の観光の活性化ならびに柏崎港の賑わいや活性化を図るとともに、特に明日を担う子供たちが優美な帆船の姿を見ることで、海に対する憧れや親しみを深める機会とするため独立行政法人航海訓練所所有の帆船日本丸が柏崎港中浜埠頭に8月8日(土)午前11時～8月12日(水)午後2時の日程で寄港します。

夏の日の思い出に御家族そろってお出かけください。



▶イベントスケジュール

・8月8日(土)

午前11時	着岸
午前11時30分～正午	歓迎式典
午後1時～午後4時	セイルドリル

*セイルドリルは帆船の帆を張る演習です。

海に浮かぶ帆船の優美な姿を堪能いただけます。

ただし、悪天候等により中止する場合があります。

・8月9日(日)

午前9時～午前11時30分	船内一般公開(受付終了午前11時)
午後1時～午後4時	船内一般公開(受付終了午後3時30分)

・8月10日(月)および11日(火) 終日停泊

・8月12日(水)

午後1時～午後1時30分	出港セレモニー
午後2時	離岸

▶問い合わせ 柏崎市都市整備課港湾係

電話 0257-23-5111 (内線286)



「高岡開町 400 年・伏木開港 110 周年」

万葉集の編纂にかかわった代表的な歌人でもある大伴家持卿が、天平 18 年(746 年)に越中国守としてこの伏木に赴任し、数々の秀歌を残しています。その当時は、伏木は布師(ぬのし)と称され、既に伏木港は亘理(わたりの)湊(みなと)として開けていました。江戸時代には、大阪や蝦夷を往来する北前船の港として栄え、多くの廻船問屋が軒を連ねた港町でありました。明治 32 年(1899 年)に外国と自由に貿易のできる開港場に指定され、今年は伏木港開港 110 周年を迎えます。



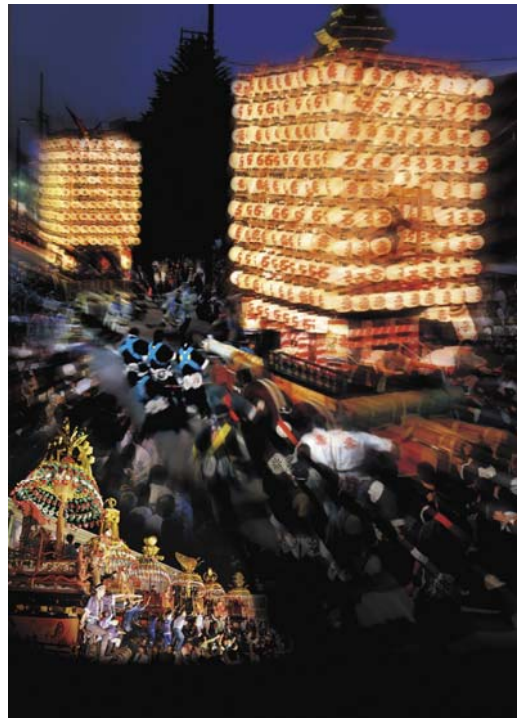
明治維新後、伏木港に西洋型商船が廻航してきましたが、伏木港は大型船が入港できず沖合いで停泊し、はしけで人や貨物を運ばねばならない不便で危険な港でありました。伏木港開港の祖といわれる藤井能三翁(1846-1913)が日本海側初の燈明台(西洋式灯台)の建設に私費を投じたり、港湾整備の必要性を説いた「伏木築港論」を発刊したりするなど、近代化を進めるための先覚者の努力により、以来、日本海側沿岸屈指の要港として、今日まで発展いたしております。

今年は、高岡が慶長 14 年(1609 年)に前田利長公が高岡城に入城し、詩経の一節「鳳凰鳴けり彼の高き岡に」とあることから、名を高岡として、ちょうど今年で開町 400 年になります。

伏木町では、高岡開町 400 年・伏木港開港 110 周年を記念して数々のイベントを開催いたします。勇壮なお祭として知られる伏木けんか山の展示や曳山どうしがぶつかり合う「かっちゃん」、伏木万葉ふ頭での花火大会、帆船「日本丸」の寄港などのイベントが 8 月に行われます。

港町伏木は、先人の英知と努力に感謝して、この記念すべき年を祝うとともに、未来へ向けて、さらなる飛躍を目指して力強く歩み始めたいと思います。

そこで、この開港 110 周年の門出に相応しい大伴家持卿が残した歌を紹介します。伏木には、富山湾越しに 3000 メートル級の立山連峰を望むことができる風光明媚な雨晴海岸があり、この海岸で詠んだ歌です。



うまな う ゆ しぶたに きよ いそみ よ なみみに
馬並めて いざ打ち行かな 渋谿の 清き磯廻に 寄する波見に

卷十七 三九五四

第14回「海の日記念式典」を開催

7月20日（月・祝）、七尾マリンパーク（七尾市）にて、第14回「海の日記念式典」が行われました。式典会場では、本年度開港110周年を迎える七尾港の発展を願い、多数の来賓が出席し、記念植樹や七尾港整備・振興促進協議会主催による海上安全祈願祭が行われました。

また、同日に七尾矢田新埠頭にて、海上自衛隊舞鶴地方総監部在籍の多用途支援艦「ひうち」、ミサイル艇「うみたか」の2隻の一般公開と「ひうち」の体験航海が行われました。県内外から約3,200人が訪れ、普段は出来ない体験を多くの方々に楽しんでもらうことができました。



第14回「海の日記念式典」



多用途支援艦「ひうち」体験航海

編集・問い合わせ先

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

北陸地方整備局 港湾計画課 大井

TEL 025-370-6604 FAX 025-280-8783